

コミュニケーションロボット名：CommU（コミュニー）

企業名：ヴィストン株式会社

I. 実生活での活用法

目標とする「活動」：項目と具体的な内容・留意点	コミュニケーション	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用者の生活不活発病防止を目的とし、会話とゼスチャーによるコミュニケーションを提供する ・ロボットを通じることで、介護者や被介護者間のスムーズな意思疎通を実現できる ・上記により、使用者のQOLを向上させることを目標とする ・同時に、同様の機能をより高度に果たしうる介護コミュニケーションロボットの開発に繋げるため、自律的コミュニケーションのための知見を蓄積することも目的とする <p>【実行内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護コミュニケーションのための知見を蓄積するため、会話に関しては、 <ol style="list-style-type: none"> 1) ロボットが自律にて対話を行う場合 2) バックエンドで人がロボットを操作し、ロボット自律では実現できない高度な対話を行う場合（稼働するロボットのうち数台程度）のパターンが存在する。 ・会話コミュニケーションの内容は、単なる雑談にとどまらず、使用者本人のモチベーション（主に外出など外部接触に関するもの）を向上させるための内容を含む ・介護コミュニケーションロボット開発の知見を得るため、ロボットの発話内容は全てログを取得しており、同時に、十分な利用価値のあるデータとするため、担当者が重要なポイントを抽出したデータとして適切に加工する。 <p>【使用対象者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・潜在的な生活不活発病患者、およびその予備軍 ・生活不活発病の予備軍とはいえないものの、将来その可能性があるアクティブシニア層
	コミュニケーション以外	被介護者 なし 介護者 なし

使用する環境 (場所、時、物、人等)		<ul style="list-style-type: none"> ・場所：介護施設内、個人の部屋 ・対象者：被介護者、介護者、家族 ・使用時間：日中（健康的な人が起きている時間） 			
おこりうるマイナスと対処法	被介護者	疾患	<p>聴覚障害者には、十分なコミュニケーションが確立できない →当該の疾患者には利用しない</p> <p>発話に障害のある者では、十分なコミュニケーションが確立できない →当該の疾患者には利用しない</p> <p>認知症患者とは、十分なコミュニケーションが確立できない →当該の疾患者には利用しない</p>		
		心身機能	<p>ロボットの稼働音がストレスとなる可能性がある →ロボット使用は日中時間に限定し、過度な利用を行わない</p> <p>ロボットが相手の一時的健康状態（その日の気分など）に関わらず話しかけ続けてしまうことによって、ストレスとなる可能性がある →バックエンドでロボットを操縦するスタッフが、使用者のストレスに関し十分に配慮を行う</p>		
		活動	<p>以前に行った実証実施例を踏まえると、ロボットを気に入りすぎて部屋から出なくなることがある →ロボット使用は日中時間に限定し、過度な利用を行わない。また、介護施設のイベントなど、全体協調が重要となる場合には、ロボットの利用を控えるよう心がける</p>		
		参加	なし		
	介護者	疾患	なし		
		心身機能	なし		
		活動	<p>介護者自らの発話、会話を阻害してしまう可能性がある →ロボットによる対話はいくまで補助的なものとし、日常におけるコミュニケーションを阻害しない程度にとどめる</p>		
		参加	なし		
	適応と禁忌	被介護者	適	疾患	なし
			応	心身機能	なし
活動				<p>潜在的な生活不活発病患者、およびその予備軍</p> <p>生活不活発病の予備軍とはいえないものの、将来その可能性があるアクティブシニア層</p> <p>対人コミュニケーションを苦手とする者</p> <p>活発に活動しうる余力があるにも関わらず、その意欲を失いがちな者</p>	
参加			なし		
禁忌		言語コミュニケーションを行えない者			
介護者		適	疾患	なし	
	心身機能		なし		
	活動		なし		
	参加		なし		
	禁忌	なし			

II. 機械としての要件定義

II-1. 有用性

主機能 (コミュニケーションとして用いる手段)	1. ロボットからの出力	音声出力、顔の表情、頬のLED表示、身振り手振り、画像センサ(カメラ)
	2. ロボットへの入力	音声入力、オペレータ入力によるPCからの発話指示

II-2. 機械としての安全性

情報セキュリティ・プライバシー	ロボット専用サーバを利用することにより、安全性が確保されている 全ての運用者には適切なITリテラシー教育が行われている ロボットの内蔵OSには適切なセキュリティ対策が施されており、権限のないアクセスはできない 愛知医科大学にて倫理審査による承認を取得予定。
安全基準への準拠	PSE準拠の電源を使用している 内蔵デバイスについては、電波の技術基準適合を取得済みである

II-3. 機器の構造・機構

機器の構造・機構	外観と重量	外形：304(H)×180(W)×130(D)mm 重量：970g
電気系	操作・操縦方法の概要	所定の操作により、電源を入れて使用する

IV. 費用、メンテナンス費用・体制

費用	1464000円(8%消費税込み) (8ヶ月のレンタル費として、488000円(8%消費税込み)) (調査期間終了後、機材のみの販売は可能なものの、バックエンドで操縦するスタッフは含まれない)	
供給体制	8月までに30台程度導入可能(最大50台供給可能) 開発元のヴイストン株式会社から供給される。	
メンテナンス	費用	含まれる
	体制	保守およびサービスを、ヴイストン株式会社から提供する。 電通ロボット推進センターがそのサポートを行う。